



新潟県

教育月報

1月号

第744号
平成24年1月4日発行
編集人、発行人
新潟県教育委員会

<今月号の記事>

- | | |
|--|-------------|
| 1：平成24年度全国高等学校総合体育大会
「2012 北信越かがやき総体」準備活動報告 | ----- P 1～2 |
| 2：幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のために | ----- P 3～4 |
| 3：「新潟水俣病学習」の推進に向けた取組 | ----- P 5～7 |

平成24年度全国高等学校総合体育大会 「2012 北信越かがやき総体」準備活動報告 保健体育課

式典アナウンサー選考会を実施

今年7月28日に、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで開催される総合開会式で、進行を務める式典アナウンサー（高校生）の選考会を、昨年6月19日に実施しました。新潟県内14校から32人の生徒が参加し、8人が選出されました。式典アナウンサーは、総合開会式の進行役の他、会場内インタビューや各種イベントでの司会なども予定しています。

これまでに3回開催された研修会では、新潟県高等学校文化連盟放送専門部より発声練習などアナウンサーの基礎・基本等について指導を受けました。今後も、研修会をとおしてアナウンサーとしての技術を磨き、総合開会式では高校生スポーツ最大の大会にふさわしく、はつらつとした進行を行えるよう練習を重ねていきます。



【第1回研修会で発声練習に励む式典アナウンサー】

草花装飾試験栽培の報告

総合開会式では、会場を草花装飾で彩る計画をしており、新発田農業高等学校と加茂農

林高等学校が担当することになっています。

両校では、本番に向け草花の試験栽培を行いました。「友情の花」として開催県に種が受け継がれているサルビアとマリーゴールドの他、梅雨期や新潟の気候を考慮した栽培管理を考え、ペゴニアなど生育ロスの少ない品種も数種類栽培しました。こうした試験栽培の報告会を昨年9月に行い、本番に向けての課題や改善等が報告されました。

また、試験栽培と共に、高体連マークをモチーフとした草花による立体装飾にも取り組みました。本大会では高体連マークと大会シンボルマークの2基を作製する予定です。



【加茂農林高等学校による高体連マークの草花立体装飾】

高校生活動

新潟県では、高校生活動推進員会議を組織し、昨年5月と9月に総会を開催しました。

第2回総会では、高校生活動の愛称を「北信越UNION～絆～」に決定しました。

この愛称は、「北信越UNION」を提案し

た作者の「北信越のすべての高校生が一致団結し、大会開催に向けた活動を協力して行うことを目指したい」という思いと、全国での様々な困難をみんなで乗り越え、より結び付きを深める様子を表現するために「～絆～」を加えて決定したものです。

また、新潟県宣伝課長「トッキッキ」の高校生活動応援隊長就任を県知事に依頼し、辞令を交付していただきました。



【トッキッキの応援隊長就任を知事に依頼】

高校生活動の各校独自活動として、文化祭等で広報ポスターの作製・展示や広報物品配布等による活動が行われています。

今後の活動としては、各校独自活動の取組を推進するとともに、来県する選手・監督に贈る手作り記念品の作製について検討を進めていきます。

また、高校生活動執行部では、全県的な広報活動として商業施設等での広報物品配布やテレビ・ラジオ出演によるPR活動を計画しています。



【八海高等学校によるペットボトルを利用したシンボルマークの作製】

カウントダウンイベントの開催

昨年11月1日新潟テルサに於いて「平成24年度全国高等学校総合体育大会 2012 北信越かがやき総体 カウントダウンイベント『北信越UNION～絆～』高校生活動の絆を深めるために！」を開催しました。

カウントダウンイベントでは、総合開会式式典アナウンサーの任命式、高校生活動の紹介、平成23年度北東北総体視察報告、友情の花伝達式等のセレモニーが行われました。

「友情の花」は、昭和52年岡山で開催された全国高校総体で、会場を地元高校生がサルビアとマリーゴールドの花で飾り、その種を大会後採取し、次の開催県に贈ったのが始まりです。それ以来、大会成功を願う高校生の手により、オリンピックの聖火のように受け継がれ、育てられています。今回も北東北3県と北信越5県から代表生徒が参加し、花の種が手渡されました。



【友情の花伝達式】

セレモニー後、アトラクションとして県内高校ダンス部によるダンス披露と県内トップアスリートをゲストにトークイベントを行いました。ゲストには、水泳の河本耕平氏と陸上競技の久保倉里美氏を招き、高校時代の部活動や高校生活、インターハイの思い出の他、競技をとおしての人とのつながり・絆についてもお話いただきました。最後には、本大会を準備・運営する生徒たちへ激励のことばが送られました。

エンディングでは、高校生活動執行部委員長 山中萌さん（新潟江南高等学校2年）が開催に向けて決意表明を行い、最後にイベント出演者全員がステージに上がり、会場の参加者全員で、大会の成功を誓い合いました。



【エンディングでの合唱の様子】



幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のために

～「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」の概要について～
義務教育課

はじめに

子どもの発達や学びの連続性を保障するため、幼児期の教育（保育所、幼稚園、認定こども園における教育）と児童期の教育（小学校における教育）が円滑に接続していくことは極めて重要です。こうした認識に立ち、平成19年の学校教育法の改正において、幼稚園教育の目的として、「義務教育及びその後の教育の基礎を培う」ことが明記されました。

また、小学校学習指導要領や幼稚園教育要領、保育所保育指針において、幼小接続に関して相互に留意する旨が規定されました。

平成22年11月には、「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」

（以下「報告」）が、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議によりとりまとめられました。

ここでは、上記「報告」の概要をお伝えします。各小学校・施設においては、生活科を核としたスタートカリキュラムの編成等とおした幼小接続の取組の参考として活用してください。なお、本報告は、下記の文部科学省HPからダウンロードできます。

◆文部科学省ホームページ

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shoutou/070/houkoku/1298925.htm

「報告」の概要について

「報告」では、幼児期から児童期にかけての教育の目標を「学びの基礎力の育成」と位置付け、互いの教育を理解し、見通すことが必要であるとしています。

また、幼小接続を積極的に進めるためには、幼児期と児童期の教育双方が接続を意識する期間を「接続期」というつながりとして捉える考え方が新たに提唱されました。その上で、「双方の教育関係者の共通概念として一層普及することは、幼小接続の取組を推進する上

で重要である。」とされ、今後の幼小接続の取組を進める上での重要なキーワードとなっています。「報告」のポイントは次のとおりです。

【ポイント1】

幼児期の教育と小学校教育の関係を「連続性・一貫性」で捉える考え方を示す。

- 教育基本法や学校教育法において幼小の教育の目的・目標（知・徳・体）は「連続性・一貫性」をもって構成されている。
- 幼小接続を体系的に理解するため、幼小の教育を「3段構造」（教育の目的・目標→教育課程→教育活動）で捉える。
- 幼小の教育の目標を「学びの基礎力の育成」という一つのつながりとして捉える。
- 幼児期の教育と小学校教育は、互いの教育を理解し、見通すことが必要である。
（その際、幼児期の教育と小学校教育はそれぞれの発達の違いを踏まえて教育を充実させることが重要であり、一方が他方に合わせるものではないことに留意する。）

【ポイント2】

幼児期と児童期の教育活動をつながりで見える工夫を示す。

- 幼小をとおした「学びの基礎力の育成」を図るため、幼児期の終わりから児童期（低学年）にかけては、「三つの自立」（学びの自立、生活上の自立、精神的な自立）を育成する。また、児童期においては、「学力の三要素」（「基礎的な知識・技能」、「課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」）を育成する。
- 「学びの芽生えの時期（幼児期）」、「自覚的な学びの時期（児童期）」という発達の段階の違いからくる「遊びの中での学び」と「各教科等の授業をとおした学習」という違いがあるものの、「人とのかかわり」や「ものとのかかわり」という直接的・具体的な対象とのかかわりで幼児期と児童期の教育

活動のつながりを見通して円滑な移行を図ることが必要である。

- 小学校入学時に幼児期の教育との接続を意識したスタートカリキュラム編成の留意点を示す。

【スタートカリキュラム編成の留意点】

- 幼稚園・保育所、認定こども園と連携・協力すること
- 個々の児童に対応した取組であること
- 学校全体での取組にすること
- 保護者への適切な説明を行うこと
- 授業時間や学習空間などの環境構成、人間関係づくりについて工夫すること
(45分の授業時間にとらわれず、15～20分程度のモジュールによる時間割の構成や人間関係づくりなどが円滑に行われるようなスタートカリキュラムの編成も考えられる。)

- 幼児期と児童期の教育双方が接続を意識する期間を「接続期」というつながりで捉える考え方の普及を図る。
(幼児期の年長から児童期(低学年)の期間における子どもの発達や学びの連続性を踏まえて接続期を捉えることが必要。なお、接続期の実際の始期・終期は各学校・施設において設定する。)

【ポイント3】

幼小接続の取組を進めるための方策(連携・接続の体制づくり等)を示す。

- 幼小接続の取組を進めるための連携・接続の体制づくり、教職員の資質向上(研修体制の確立)、家庭や地域社会との連携・協力についてのポイントを示す。
- ※連携から接続へと発展する過程のおおまかな目安は以下のとおりである。

【連携から接続へと発展する過程の目安】

- ステップ0：連携の予定・計画がまだ無い。
- ステップ1：連携・接続に着手したいが、まだ検討中である。
- ステップ2：年数回の授業、行事、研究会などがあるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。
- ステップ3：授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。
- ステップ4：接続を見通して編成・実施された教育課程について、実践結果を踏まえ、更によりよいものとなるよう検討が行われている。

新潟県における「幼小接続」の現状

平成22年度小・中学校教育課程の編成・実施状況等に関する調査結果によると、県内の小学校における「幼稚園・保育所との連携」の状況は、以下のようになっています。

(対象校：小学校416校、但し新潟市を除く)

	実施校数	%
幼稚園・保育所の幼児と小学校児童との教育活動の交流	388	93.3
幼稚園・保育所の職員との交流(研修会・情報交換会等)	405	97.4

県内の各小学校においては、幼児と児童の交流活動や幼小の教職員の意見交換等の取組は、どの学校においてもある程度行われている状況といえます。

幼小接続の取組は、教職員の交流などの人的な連携から始まり、次第に両者が抱える教育上の課題を共有し、やがて幼児期から児童期への教育のつながりを確保する教育課程の編成・実施へと発展していきます。

小学校学習指導要領解説生活編においては、「総合的に学ぶ幼児教育の成果を小学校教育に生かすことが、小1プロブレムなどの問題を解決し、学校生活への適応を進めることになるものと期待される。入学当初の生活科を中心とした合科的な指導は、幼児期から小学校教育への円滑な接続をもたらしてくれる。」と示されています。

今後は、これまで継続している幼児・児童の交流活動や教職員同士による情報交換会や合同研修会等の取組を一層充実していくとともに、生活科を核としたスタートカリキュラムの編成による教育課程の編成や実施についても、各学校において取組をお願いします。

おわりに

県教育委員会では、「新潟県幼稚園教育研究会集会」を実施しています。平成22年度からは、県内の公私立幼稚園、保育所、小学校、特別支援学校の教職員による合同研修会として位置付けています。「幼小接続」についての理解を深める場として、是非御活用ください。



「新潟水俣病学習」の推進に向けた取組

～「新潟水俣病教師用指導資料集」を活用した授業実践紹介～義務教育課

はじめに

県教育委員会では、新潟水俣病の経験と教訓を後世に伝えることにより、いまだ解決されていない新潟水俣病問題と人権に対する理解を深める取組とともに、環境を大切する意識を育むための取組を推進しています。この取組を一層進めるため、県内のすべての学校、教室で新潟水俣病の学習が行われることを願い、「新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために～新潟水俣病教師用指導資料集～」を作成し、平成22年9月に全県の小・中・特別支援学校に配布しました。

本号では、教師用指導資料集を活用した授業実践の概要を紹介します。

また、授業実践の際に活用できる資料等を紹介します。各学校の今後の取組の参考としてください。



「教師用指導資料集」の活用状況

平成22年度小・中学校教育課程の編成・実施状況等に関する調査結果では、「新潟水俣病教師用指導資料集」を活用した学習等の取組状況は以下のようになっています。(対象校 小学校416校、中学校176校、但し新潟市を除く)

【教師用指導資料集の活用状況】

	小学校		中学校	
	学校数	%	学校数	%
平成22年	199	47.8	33	18.8

小学校では47.8%、中学校では18.8%の学校において、既に「新潟水俣病教師用指導資料集」を活用した学習等を教育課程に位置付けるなど、継続的な実践に取り組んでいます。

本指導資料集には、小学校第3学年から中学校第3学年まで継続して指導できる指導計画例と具体的な学習指導案を掲載しています。

また、すべての小・中学校で学習できるように、基本的な内容を取り上げています。指導計画例や学習指導案を基に、各学校や地域の実情に応じて、授業実践をお願いします。

「教師用指導資料集」活用事例の紹介

【南魚沼市立五十沢小学校 青柳 幹男教諭の実践】 実施学年：5年生 教科：社会科
＜指導資料集P.46参照＞

- ◆単元名 公害を二度と繰り返さないために～新潟水俣病～
- ◆本時 第2時（全6時間）
- ◆ねらい 新潟水俣病の症状を知り、新潟水俣病についてもっと調べてみたいことを考え、学習の見通しをもつことができる。

◆授業の概要

リーフレット「新潟水俣病が教えてくれたもの」をグループで見ながら、新潟水俣病の症状を調べ、自分のノートに書き出した。その後、「新潟水俣病についてもっと調べてみたいこと」を各自がノートにまとめた後、学級全体で意見交換し、課題意識を深めた。さらに、新潟水俣病についてこれから調べたいことを決定した理由をまとめ、次の時間から学習する課題を明確にした。

◆授業実践者の感想

今までの生活経験や獲得した知識の違いなどで、個人差はあるものの、「今も苦しんでいる人を助けたいから、治す方法がないのかを調べたい。」「川で魚をしているのが分かっているのになぜ水銀を流したのかを知りたい。」と、自分の調べたいことを決定し、その理由をまとめることができた。

社会科の教科書だけでなく、リーフレット「新潟水俣病が教えてくれたもの」を活用することで、患者の方々の立場に立ち、新潟水俣病の問題をより深く理解しようとする思いをもつ子どもが多かった。今後も社会科としての側面と道徳的な側面から授業を継続していきたい。

リーフレットの活用
リーフレットを基に新潟水俣病の症状について自分のノートに書き出した。



【五泉市立五泉東小学校 長沢 真由美教諭の実践】 実施学年：4年生 教科：道徳
 <指導資料集P.30～41参照>

- ◆**主題名** みんなが仲良くくらししていくために2-(2) 思いやり・親切
- ◆**ねらい** 新潟水俣病の差別や偏見によって失った地域の結び付きを取り戻すために行動する姿をとおして、相手のことを考えた言動の大切さに気付き、自らも思いやりのある言動を行おうとする心情を高める。

◆**授業の概要**

事前に、3年生道徳指導案を活用し、絵本「阿賀のお地蔵さん」とDVD「旗野さんのお話」を使い、新潟水俣病の概要と患者の生き方について学習した。<指導資料集P.22～28参照>

本時ではまず、阿賀のお地蔵さんの写真を提示し以前の学習を想起させた後、読み物資料「お地蔵さんにこめられた願い (P.37)」を読んで、新潟水俣病が起きる前と後の村の様子を考えた。

その後、偽患者と陰口を言われたAさんの気持ちを、教師と児童代表による「ロールプレイ1」と、子ども同士のペアによる「ロールプレイ2」で考えた。最後に自分の思いを伝えたい相手を選んで手紙を書き、自分の思いや考えをまとめた。



(ロールプレイ2)
 B:大丈夫?私も応援するから新潟水俣病に認めてもらえるようにがんばろうよ。

◆**授業実践者の感想**

子どもたちは、前日に「環境と人間のふれあい館」に行き、語り部さんから新潟水俣病について話を聞いてきた。読み物資料「お地蔵さんにこめられた願い」の内容が語り部さんの話と一致し、実際に起きた悲しいできごととしてとらえることができた。また、ロールプレイで実際に言葉かけをすることをとおして、新潟水俣病患者の方々の辛い気持ちに寄り添って考えることができた。

今後も差別と偏見を許さない気持ちと相手の気持ちを考えて行動していくことの大切さを伝えていきたい。

(ロールプレイ2)
 A:病院に行ったけど、認めてもらえなかった。この痛みが新潟水俣病でないならなんなんだ!



【上越市立里公小学校 桂 郁子教諭の実践】 実施学年：4年生 教科：道徳
 <指導資料集P.30～41参照>

- ◆**主題名** みんなが仲良くくらししていくために2-(2) 思いやり・親切
- ◆**ねらい** 地域が差別や偏見によって結び付きを失い傷つく人々の様子や結び付きを取り戻すために行動する人の姿を学習することを通して、相手の立場を想像し、相手のことを考えた言動の大切さに気付き、自らも相手に親切な行為を行おうとする心情を高める。

◆**授業の概要**

水俣病患者の方々の気持ちに十分共感させるため、1日目30分間、2日目45分間の2回に分けて授業を行った。

1日目に読み物資料「お地蔵さんにこめられた願い (P.37)」と掲示資料「笑顔の人々」と「怒りの人々」(P.35)を使い、新潟水俣病が起きる前と後の村や人々の様子について考えた。

2日目は、お地蔵さんを建てた旗野さんの思いについて考えた。「お地蔵さんを建てたからといって仲良くなることはない。では旗野さんは、何のためにお地蔵さんを建てたのか。」と発問をし、お地蔵さんを建てただけでは仲良くなることを意識させた。その後、4人グループで相談して自分たちの考えを発表した。

その後、ロールプレイを行った。最後に、相手のことを思いやる気持ちが大切であることを確認し、自分の思いを伝えたい相手に手紙を書いた。

授業の際の板書については、指導資料集に掲載されている「板書計画(例)」を参考にすることができる。
 <指導資料集P.34参照>



(班での話し合い)
 「なぜ、旗野さんはお地蔵さんを建てたのだろうか…」

◆**授業実践者の感想**

この授業の後、旗野さんに会う機会があった。その際に、「お地蔵さんにいろんな人がお参りをしに集まる。そこで会話が生まれ、仲が良くなる。だから旗野さんはお地蔵さんを建てたのだと思う。」という子どもの考えを伝えると、「そのとおりです。」と言ってくださった。子どもたちは授業をとおして考えた自分たちの考えの正しさを確認し、自信を深めることができた。

(ロールプレイ)
 患者役Aは代表者1名が行い、Aに対して思いやりのある共感的な言葉掛けをするBの役を数人の児童が交代で行った。





指導案・参考資料の活用について

学習指導案及び児童生徒に配布する資料やワークシートは、新潟県ホームページ「新潟水俣病教師用指導資料集」からダウンロードできます。また指導する際の参考資料として、図や写真等もダウンロードして、授業に活用することができます。

【参考資料の例】

- 阿賀野川流域図
- 阿賀野川流域の暮らしー砂利船ー
- 新潟水俣病教材年表
- 「中学校道徳学習指導案2」用プレゼンテーション資料 など

◆新潟水俣病教師用指導資料集

<http://www.pref.niigata.lg.jp/seikatueisei/1272495616819.html>

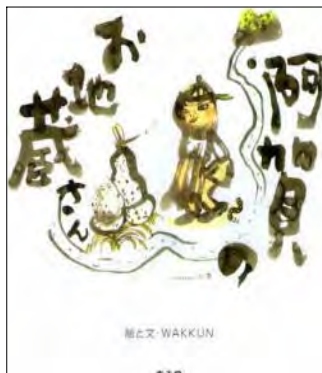
指導教材の活用について

新潟水俣病教師用指導資料集と併せて、小学校第3学年の指導教材として以下の絵本とDVDを配布しました。新潟水俣病学習の導入教材として活用してください。

(1) 絵本「阿賀のお地蔵さん」

(絵と文：涌嶋克己(WAKKUN) 考古堂2006)

少年が阿賀のお地蔵さんとの出会いをとおして、初めて新潟水俣病のことを知り、患者さんや取り巻く人々の苦しみや願いに共感して力強く生きていこうと決意するお話です。初めて新潟水俣病を知る児童にとって、共感して読み進めることができる教材です。



(2) DVD「旗野さんのお話」

(出演：旗野秀人 自作DVD)



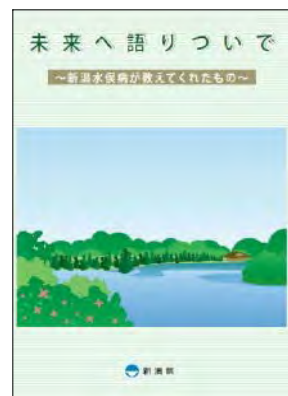
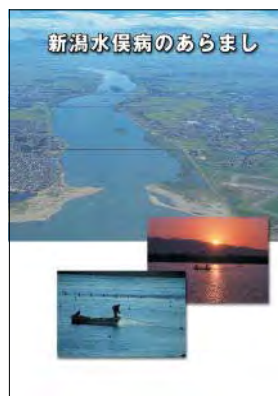
出演していただいた旗野さんは、CD、映画、絵本などの作成をとおして、被害者支援のための活動を全国的に展開しています。

関連資料の活用について

新潟県では、これまで学校教育での新潟水俣病学習の普及・充実をめざして新潟水俣病に関する資料・パンフレットの刊行・配布を行ってきました。本指導資料集でも各学年の指導教材として提示しています。以下の資料は、新潟県ホームページからダウンロードして活用することができます。

(1) 「新潟水俣病のあらまし」

(2) 「未来へ語りついで～新潟水俣病が教えてくれたもの～」



おわりに

新潟水俣病は、本県で発生した環境問題であり、人権問題です。発生から45年以上が経った現在に至っても解決していません。今でも偏見や中傷がある一方で、無関心による問題の風化も懸念されています。問題解決の第一歩は、新潟水俣病の事実を正しく捉えることです。また、新潟水俣病の経験に学び、環境を守ることやよりよい環境を創造する実践力の育成が大切です。

「新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために～新潟水俣病教師用指導資料集～」が、新潟水俣病学習充実の一助となるよう確実な活用をお願いします。各学校では、学校の実情、児童生徒の実態に応じ、新潟水俣病学習を道徳や社会科の年間指導計画に位置付けるなどして、授業実践に取り組んでください。

教育月報



HPでもご覧ください。
「教育月報」で検索！

発行所 新潟県教育庁総務課
所在地 〒950-8570
新潟市中央区新光町4番地1
電話 025-280-5587 F A X 025-285-3766
E-mail ngt500010@pref.niigata.lg.jp
HP版URL <http://www.pref.niigata.lg.jp/kyoikusomu/>

本紙に関するご意見がありましたら、お寄せください
<無断転載を禁ず>